ピックスワーク

SD映像からHD静止画

独自の画像処理技術をソフト化

既に番組制作会社に納入

ピックスワーク（旧社名・トランスメディア・コミュニケーションズ、www.pixwork.co.jp）は、SD画像から、HD解像度にスケールアップした静止画像を作り出すソフトを開発した。

同社では、社名と同じ「ピックスワーク」と呼ばれる独自の映像処理アルゴリズムにより、可逆圧縮符号化方式による画像圧縮技術を持つ。この付加機能として、動画を再生しながら拡大・縮小を行う機能があり、新製品はこの拡大機能を基に、解像度の低い映像からキャプチャーした静止画を、画質の低下を抑えながらHD解像度に変換することが可能。

「これまでフォトショップやアフター・エフェクトなどでも同様の機能はあったが、画質面で大幅に良好な画像を生成できる。輝度の最適化をしており、モニター上で表示した場合、比較的鮮やかに再現できる。ブロックノイズがなく、より自然な拡大が可能になっている」（ピックスワーク取締役・藤倉忍氏）という。ウィンドウズ対応ソフトとして提供するので、これまでのワークフローに簡単に組み込むことができる。現状では出力形式は、ビットマップ方式のみだが、順次他のフォーマットにも対応していく。

撮影素材の再利用で基の画像をなるべくきれいに静止画で再現する場合に有効。また、視聴者から投稿された携帯電話付属カメラなどからの粗いデジタル画像をきれいに再現するといった場合にも利用できるという。関西の地上波放送局系の番組制作会社に納入予定であり、地方局やプロダクション向けに販売していく。現在は単体のソフトだが、今後、プラグイン、SDKも開発。販売方式は、CD−ROMの直販、ダウンロード方式などを採る予定で、そのほかディーラーとも交渉中という。発売は十一月の予定。プラグイン、SDKは来年第1四半期を予定している。

ピックスワークスでは、今後、同じアルゴリズムを用いて動画像のアップコンバート製品も開発していく方針。SD映像からHD映像への変換が可能なディスクレコーダーやPC用ボードとして製品化していく。